

## ◆テーマ◆中学生が主人公

### ●西の魔女が死んだ 梨木 香歩 著 小学館

中学に進んでまもなく、学校に行けなくなった主人公のまい。彼女は、しばらくの間、自然がいっぱいのおばあちゃんの家で過ごすことになりました。おばあちゃんは、まいに「自分の家系は魔女の家系だ」と話し、まいは魔女修行をすることに…。

その魔女修行とは、ほうきに乗って空を飛ぶことでも、長い呪文を唱えることでもなく、「何でも自分で決める」ということでした。喜びも希望も、もちろん幸せも…。さて、まいの魔女修行の行方は…。

単行本は小学館からですが、文庫本は新潮社から出されています。文庫本には、その後のまいちゃんのお話「渡りの一日」が併録されています。お見逃しなく。

### ●14歳、明日の時間割 鈴木 るいか 著 小学館

学校の時間割に見立てて構成された、7編の短編小説がおさめられています。7編は、それぞれ同じ中学校に通う中学2年生たちが語り手です。

例えば、〈1時間目 国語〉の語り手は、応募した短編小説が入賞し、中学生にして作家となってしまった明日香ちゃん。〈4時間目 道徳〉は、道徳的にダメな大人たちに囲まれ苦勞の絶えない少年・松尾くん。〈5・6時間目 体育〉は、体育が大の苦手な茜ちゃん。

彼らは、周囲の友達や大人たちを、そして自分自身を鋭く観察し、語ります。でも、その口調はユーモアにあふれていて、読んでいて、吹き出さずにはられません。

また、語り手にはなりませんが、どの短編にも必ず出てくる人物がいます。誰なのか、探してみてください。

### ●温室テイス 瀬尾 まいこ 著 角川書店

この物語の主人公は、二人の女子中学生。小学生の時にいじめにあった優子と、優子に対して罪悪感を持ち続けている「みちる」です。中学3年になったふたりに、再びしのび寄る学級崩壊といじめ。敢えて、そのいじめに立ち向かったみちるを待っていたのは…。

著者は、かつて中学校の先生だった作家・瀬尾まいこさん。中学校をよく知っている人が書くだけに、リアルで、にがい物語ですが、くじけそうになりながらも自分の信念を曲げないみちるの姿にも、ひ弱そうでいながら、周囲を鋭く観察して、自分なりのやり方で、道をきりひらこうとする優子の姿にも、胸が熱くなります。